



重点アクセサリ研究
ケーブル浮かせ論

田中伊佐資の“浮かせ論”

地味なケーブルだって浮いた話の ひとつやふたつ、あっても良い



田中伊佐資氏のオーディオルーム。アナログを中心にシステムを構築している

**電源回りの振動対策で
きびきびとした勢いある音に**

地味なケーブルだって浮いた話のひとつやふたつ、あってもいい。ただの洒落でしかないキヤッチが最初にできて、それに合わせた原稿を書こうと思っただが、よくよく考えてみると振動の対処はケーブルよりも電源回り。僕の心のなかの比重はそちらのほうが重い。

最近、その気持ちをごさら強くした。そのきっかけはフルテックのNCF Boosterだ。これは電源ケーブルのインシュレーター、ブラクなどを支えてホールドするアクセサリ。



オーディオラックの裏側。角材の上に電源タップを8個用意し、それぞれのオーディオ機器につながっている。



SPLのボリュームコントローラーVolume8をNCF Boosterがガッチリホールド



インターコネクはアコースティックリヴァイブのRCI-3Hで浮かせる

見た目が大きすぎるように感じて、本当にここまでする必要があるのかや引いたが、微妙にぐらつきやすいこのブラクをしっかりとジョイントするには、ここまでの仕組みが必要になる。音を聴いてすぐに納得した。音が克明になり、きびきびとした勢いが出た。これまでバケツリレーのようにして、大事に運んできた電気を最後の最後で大分こぼしていたかのように思った。

これとは逆の発想で、もう生産終了になっているが、中村製作所がかつて作っていたプライヤ製ブラク・カバ（PCCWシリーズ）は、電源ケーブルへの響きをのせて、音質をふくよかできリッチな

方向へ導くことを目的としている。これはDEQXの電源ケーブルにいまも使っている。

反対側、入り口の電源だが、写真のように壁コンセントやタップはハードメイプル角材の上に載せている。角材が大きなこともあって、下に入れるインシュレーターはそれほど音に影響を与えないだろうとなめてかかり、二重待遇の有り合わせを使っていた。

しかしまさかと思っただNCF Boosterのこともあり、試しに奮発してフィニッシュエレメントのセラベースを入れてみたら、いきなり中低音にパワーがみなぎった。まったく侮れない。

個々の壁コンは、ただ置いてあ

田中伊佐資 愛用の浮かせアイテム

- FURUTECH ケーブルホルダー NCF Booster (¥32,800/税別)
- ACOUSTIC REVIVE ケーブルインシュレーター RCI-3H (¥18,000/税別/1個)
- TIGLON マグネシウムスタッパつきチューニングベルト TB-MG15W (¥5,600/税別/1.5m)
- finite element インシュレーター CERABASE classic (¥110,000/税別/4個)

る状態だったため、リジッドにしてみようとティグロンチューニングベルトで角材にくくりつけてみた。これもドラマチックに効いた。音に粘りやふんばりが出て、より彫りが深くなった。

そうなること、ベルトで縛るだけではなく壁コンのボックスを角材に打ちつけることを考えてしまふ。さらには、集材材ではなく響きのいい無垢板にしたらどうなるんだらうかと思いを巡らせる。

ところでインターコネクの振動対策も甘くない方がいい。僕の家ではフォノイコライザー・ブリアンプ間が4mもあり、そのうえ左スピーカーの背後すぐ近くを回る経路だから、音声信号はかなりの勢いで床から伝わる振動で揺さぶられている。そこでアコースティックリバイブのRCI-3H浮かしてみようと、微細な滲みが消えてよりクリアになった。

そもそも機器のインシュレーターやボードを注意深く吟味していながら、ケーブルは床におっぴり出しては画竜点睛を欠く。変化の具合は顕著ではないが、この部分の振動対策はある程度全体のチューニングができてから、最後のひと押しとして重要になってくる。